

同窓会 会長 幹事 インタビュー

結束という財産

近年、国内の社会人大学院で同窓会組織の発足や拡大が相次いでいる。大学院で培われる「人的ネットワーク」は、社会人学生にとって学術的な知識とともに、人生の大切な財産になる。大学院で人的ネットワークを育むためのポイントは何か。また修了生の人的交流において同窓会はどのような役割を果たしているのか。専門家や同窓会幹事にお話しいただいた。



ヒューマンスキルの研鑽が 人脈の拡大につながる

国内MBAの実態調査や、MBAを軸としたキャリア開発支援などを実施するNPO法人MBAキャリアデザイン研究所。代表を務める庄司祐子さんは、自らも社会人向け大学院でMBAを学び、修了後の05年に



同研究所を設立。さらに翌06年には人材関連のサービスを提供する会社を起業した。「NPO法人の設立や起業ができたのは、大学院時代に培った人脈のおかげ」と振り返る庄司さんだが、意外なことに入学当初は、大学院での人的ネットワーク構築にはほとんど期待していなかったと語る。



「入学当初、大学院に期待していたのは経営についての知識です。経営を深く学び、起業のきっかけになればと考えており、正直言って、人脈面にはあまり期待はしていませんでした。しかし修了後の今振り返ると、大学院で得られた一番の財産は、やはり人的ネットワークだと思います。米国スタンフォード大学のジョン・



克蘭ボルツ教授が、キャリアの8割は『計画された偶発性』によって支配され、磨かれていくということを提唱しています。私にとって社会人大学院は、まさに数多くの偶発性を得る機会になりました」
その偶発性の一つが、多様なバックグラウンドを持つ多くの学生との出会いだ。偶然にも同じ場で学ぶこ



NPO法人 MBAキャリアデザイン研究所 代表理事
財社会経済生産性本部認定キャリア・コンサルタント
庄司 祐子さん

青山学院大学卒業後、日商岩井、外資系企業数社を経て、人材紹介事業の立ち上げなどを経験。06年、キャリア・コンサルティング事業を営むセドナ株式会社を設立。NPO法人MBAキャリアデザイン研究所の代表理事として、ビジネススクール進学志望者に対する支援も行っている。

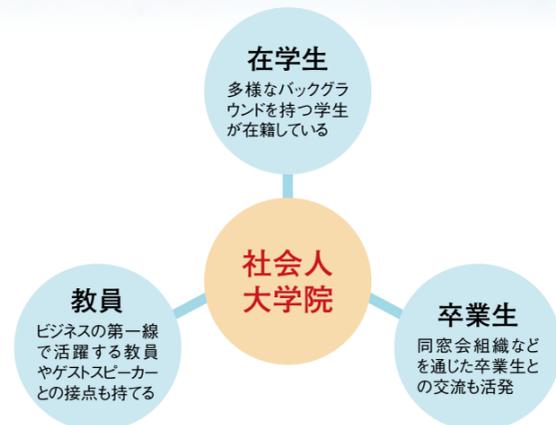
価値を發揮するのは、修了後になることが多い、と庄司さんは語る。在学中は仕事と学業の両立に皆が一生涯懸命で、人脈を活かす余裕がなかなかないからだ。お互いに苦労をして目標を達成したからこそ、修了後は仲間に対する信頼感も増すのだと言う。「私の大学院時代の同期で言えば、半数以上が大学院修了後に転職をしており、その中には大学院時代の仲間から誘われたというケースが相当数あります。ともに大変な思いをしながらかつてきた仲間だからこそ信頼できずし、どんな価値観をもつていて何が得意かというのをお互いによくわかっている。ですから大学院時代の出会いがきっかけで転職をして失敗したケースは、あまり聞いたことがありません」

転職のような大きなライフイベントだけでなく、ビジネス上のちょっとした悩みや解決にも同窓生のネットワークは活かされている。「新規事業を興したり、ビジネス上の問題解決をしたりするために、同窓生に相談することはよくあります。もちろん同窓生間でビジネス・パートナーとなることもあり、私自身もWeb制作の仕事を引き受けたりしています」

修了生間が人的交流をするうえで潤滑油の役割を果たすのが大学院の同窓会だ。同窓会の活動内容は下記の通りだが、多くの大学院では、修了生同士だけでなく、修了生と在学生との交流も図っている。

ただし修了生との人脈の維持のためには、同窓会のオフィシャルな集

■社会人大学院で形成できる主な人脈



とになった業界・業種の異なる同期の仲間たち。その仲間と一緒に切磋琢磨して学業に取り組むことで、ヒューマンスキルも磨かれていったと庄司さんは言う。「社会人大学院にはさまざまな業界・年齢層の学生が在籍しています。そうした学生と腹藏なくコミュニケーションを取ることで視野を広げられますし、自分とは異なる価値観を共有する努力を続けることで人間的な幅も広がっていきます」

このようにしてヒューマンスキルを磨くことは、実は人的ネットワークを構築することと同義だ。「ヒューマンスキルが向上すれば、自然と周囲に人が集まって人脈が広がっていく

く」からだ。そして新たな形成された人脈によって、再び自分のヒューマンスキルが磨かれていく。利害関係がなく、だれもが平等な立場でコミュニケーションできる社会人大学院では、そのような好循環を築きやすいと庄司さんは説明する。

人脈を広げるチャンスは決して逃さない気持ちで

社会人大学院で人脈を広げるためには、心がけておいた方がいいポイントがいくつかある。まず大前提として社会人大学院は真剣な学びの場であり、積極的に自らの意見を発言し、授業に貢献することが重要になる。人脈をつくることに躍起になり、授業が疎かになってしまつては本末転倒になってしまう。そのうえで庄司さんがアドバイスするのは、次の2点だ。

「まず一つは、互学互修の精神で、お互いに助け合うことです。国内の社会人大学院の多くは、仕事をしながら通学する学生が大半を占めていると思います。ときには仕事が忙しく、どうしても授業に出席できないこともあるでしょう。そんなときは助け合いの気持ちをもって、こんな内容を学んでこんな課題が出た」と教えてあげる。共通の目標に向かって皆で頑張るといふ雰囲気ができるので、信頼できる人脈が形成されやすくなります」

そしてもう一つは、人脈を得る機

会を逃さないように心がけることだ。「たとえば社会人大学院の授業では、第一線の著名人や経営者、ビジネスパーソンがゲストスピーカーとして講義をすることも少なくありません。そのようなときには必ず挨拶をして名刺を交換しておく。貴重なお金と時間を大学院に投資しているわけですから、恥ずかしいなどと思わず、わずかなチャンスでもあれば、人脈を広げるための行動を起こすことが大切だと思います」

クラスメイトに対しても同じように、率先してコミュニケーションを取ることが望ましい。

「たとえば授業が終わった後、みんなと食事に行きたいけれど、だれも言い出さないから行かない、という状況になることがよくあります。そんなときに勇気を出して自分から周りの人を食事に誘ってみる。あるいは、大変かもしれないですが、クラスメイトの間でメーリングリストをつくったりして、交流のまとめ役を買って出る。こういうことができる人は、だれからも信頼され、この人のために何かをしたい」と人が集まってきます」

とはいえず入学直後など、お互いの性格や考え方がわからないうちは、踏み込んだコミュニケーションを取るのには相当な勇気がいるかもしれない。しかしこうした問題は、授業の取り方によって解決することもできる」と庄司さんはアドバイスする。

「たといえは1年次はディスカッションやグループワークの多い授業を優先的に受講するといった方法もあります。授業を通じて同期の学生の考え方や価値観を理解できますし、自分自身も他の学生に知ってもらえやすくなると思います」

授業で積極的に自分の意見を発言し、クラスに貢献することが結局は人脈づくりの近道になることも考えられそうです。

■社会人大学院での人脈作りのポイント

- 在学中は「互学互助」の精神を忘れずに
- 自ら進んで価値観の異なる人とコミュニケーションを取る
- ディスカッションには積極的に参加する
- 常に自分の意見を持ち、論理的に伝える努力を
- 同期生や卒業生と定期的に会う機会をつくる

社会人大学院の同窓会の活動内容は？

年1回の総会のほか
勉強会や研究会を実施

近年、修了生の増加に伴い、同窓会を新たに発足したり、組織拡充を行ったりする大学院が増えています。MBAやMOTなどビジネスと密接な大学院の場合、同窓会の活動がかなり活発なのが特徴だ。実際に修了生間の盛んな交流が、ビジネスに結びつくケースも多い。

同窓会に入会するためには基本的にはその大学院を修了する必要がある。活動内容としては年に1回程度の総会が最も大きなイベントで、このほかに勉強会や研究会、交流会などを随時開催している同窓会が目立つ。こうした会合に積極的に参加することが、大学院時代の人脈を維持し、広げていくポイントの一つだ。

また最近では、複数の大学院の修了生が集まる交流イベントも実施されている。大学院は違っても、苦労をして仕事をしながら学んだ点は同じであり、意気投合できる人も見つかるはず。こうした交流イベントにも参加して、積極的に人脈を広げるのもいいかもしれない。

「まずは自分の学びたいことをしっかりと学べる大学院かどうか重要です。そのうえで大学院説明会に参加したり、在学生や修了生に会って話を聞いたたりして、校風が自分に合っているかどうかを見極めてほしいと思います。人脈づくりという観点からは、同窓会も重要なポイントです。同窓会にはしっかり組織されているか、どんな活動をしているかといったことをチェックするのいいと思います」

ぜひ参考にして欲しい。

苦楽をともにしたからこそ、一生涯、付き合える仲間ができる

このようにして形成した大学院時代の人脈だが、人的財産としての真